

【東映太秦映画村・営業再開ガイドライン】

(株)東映京都スタジオ

東映太秦映画村の取り組み

【基本の考え方】

感染予防および、お客様・従業員の安全確保のため、3密（密閉・密集・密接）を避けた営業体制を徹底します。

(1) 従業員の体調管理

- ・手洗い、うがい、アルコール消毒の励行。
- ・朝必ず検温して 37.5℃以上の発熱、体調不良の場合は、出勤の停止。

(2) 手指消毒用液の設置

- ・お客様入村口、村内各施設にアルコール消毒液の設置。

(3) お客様高頻度接触部位についての消毒の徹底

- ・ドアノブ、手すり、エスカレーターベルト、テーブル、椅子の背もたれ、エレベーターのボタン、展示ケース、トイレの便座、便座のふた、トイレトペーパーのふた、水洗レバー等。

(4) 飛沫感染防止の徹底

- ・従業員はマスクまたはフェイスシールドまたはマウスシールドを着用。
- ・対面での接客においては、ビニールカーテン、アクリル板等を設置し飛沫感染防止。
- ・劇場等では演者の発声による飛沫感染対策として、前方席の使用を控える等により演者と客席の距離(できるだけ 2mを目安に(最小 1m))を確保することにより演者はマスクの着用を不要。

(5) ソーシャルディスタンスの確保

- ・入村前等の行列間隔等、ソーシャルディスタンス(できるだけ 2mを目安に(最小 1m))を確保。
- ・飲食店においては席の間引き等を実施。

(6) 症状のあるお客様の入村制限

- ・お客様入村時の体温チェックを実施。(サーモグラフィの通過) 37.5℃以上の発熱、体調不良の場合は入村を制限。
- ・お客様入村時にはマスクまたはフェイスシールドまたはマウスシールドの着用を徹底。

(7) 映画村内及び各アトラクションの滞留人数を管理し、状況により入場制限を実施

- ・混雑時の入場制限を実施。
- ・入口、出口の分離で接触回避。
- ・滞在時間が短くなるよう、公演時間の前後の滞留をなくすよう工夫。

(8) 熱中症の予防

- ・屋外で人と十分距離(2m以上)を確保できる場所では、適宜マスクを外していただくことも可能。但し、飛沫感染が懸念される「謎解き迷路 まぼろし砦」についてはマスク着用。

以上